

留学報告書 2015 年 6 月

University of Oxford, Computer Science

五十嵐歩美

渡英から 10 ヶ月が経ちました。オックスフォードでは、長くて暗い冬も終わり、まぶしい緑と爽やかな景観が広がる夏を迎えようとしています。前回 12 月の報告書では、やや陰鬱なトーンで筆を進めてしまいましたが、今は心なしか軽快にタイピングをしています。天候が気分を与える影響は大きいものです。

さておき、近況を報告します。1、2 学期目の Michaelmas、Hilary Term では、授業の予復習に追われて、研究にあまり時間を割けませんでした。授業に出て勉強すること自体は楽しかったのですが、自分のペースで研究を進められず、もどかしい日々を過ごしていました。さらに、指導教員との具体的な研究テーマ探しもうまくいっているとは言えませんでした。自分が面白いと思う問題を見つけても先生の反応がちょっとイマイチ。。。そんな日々が続きました。しかし、ある日のセミナーで話題になった問題を、ある方向に一般化できないかとおそるおそる発言したところ、先生の目が一気に輝いたのです。Go サインが出た瞬間でした。その後色々と調べるうちに、そのふとした思いつきの先には数学的にも面白い世界が広がっていることを知り、ここ 2、3 ヶ月はその問題の虜になって一心不乱に研究をしています。

授業という拘束がなくなり、自由を手に入れた博士課程の友人たちとマトロイド理論という組合せ最適化分野で重要な理論の勉強会を始めました。自分一人だけでは、見えなかった



図 1 punting 中に撮影

観点から色々教えてもらい、本当にためになっています。スロバキア出身の友人が直感的な理解をととても大切にするので、おかげで以前より、証明の背景にある本質をより深く考えるようになった気がします。

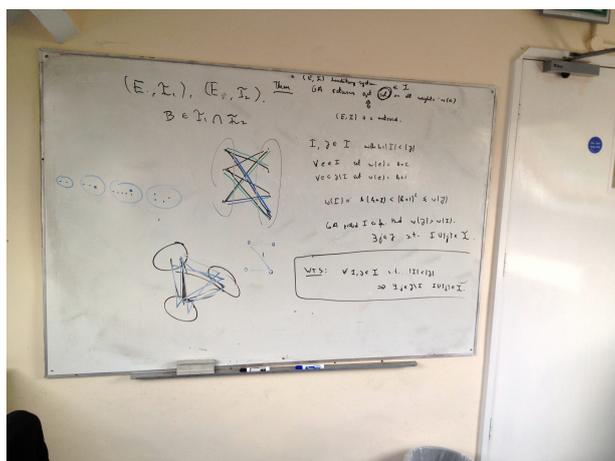


図2 ゼミ中に撮影

もう一つ、最近あった印象的なことを書きます。私の長年のスーパースターである Jack Edmonds 先生とお話するチャンスがありました。Jack Edmonds 先生は、知る人ぞ知る組合せ最適化理論の大家です。買い物帰りに、ふとカレッジの隣にある経済学部を見ると、研究室の同僚がヒッピー風の格好をしたご老人と話をしていました。それが、何と Jack Edmonds 先生だったのです。経済学部で行われていた学会に参加するためにオックスフォードを訪ねていたようです。オックスフォードに来て良かったと思うことの一つは、こういったスターに気軽に会える機会が多いことです。つつい引きこりがちな自分ですが、貴重な機会に恵まれていることを自覚し、積極的に人に会っていかねばと思います。

自由にのびのびと研究ができて、とても楽しく過ごしています。着実な成果に結びつけられるよう日々精進し、自由の重さと軽さを存分に味わいたいと思います。